

11 月例会報告

【日時・会場】2002 年 11 月 22 日（金）19:00～筑波大学附属高校体育館ミーティングルーム→～1:30
カリンカ

【テーマ】JFL の歴史と展望（第 1 報）－ JFL の歴史と基礎的問題について－

【話題提供者】内藤隆（横河武蔵野 FC）

【報告作成者】浦和俊介

【参加者（会員）】上間匠（東京大学大学院修士課程） 浦和俊介（名古屋大学） 内藤隆（横河 FC）
中塚義実（筑波大学附属高校） 松岡耕自（立命館大学国際関係研究科） 宮崎雄司（オフィス・アステ
カ代表／サッカーマニア編集長） 依藤正次（プロジェクト 2002）

【参加者（未会員）】奥田隆司（Soccer Forum） 青山潤・釜賀尊裕・川島晋太郎・中村大輔（一橋大
学早川ゼミ） 紀中靖雄（川崎青年会議所） 筒井創介（いちファン） 本橋正江（横河 FC スタッフ）

【カリンカから参加】浜村真也 平川亘

注）参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでも
コミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものでは
ありません。

JFL の歴史と展望（第 1 報）－ JFL の歴史と基礎的問題について－
内藤隆（横河武蔵野 FC）

<目次>

<1> JFL の歴史

<2> 体育実技の実践報告

<3> JFL 所属クラブ、リーグが抱える問題

<4> JFL 所属 横河 FC の取り組み

<5> 今後の研究事項

<6> まとめ

<1> JFL の歴史

■ JFL（1999 年～現在）とは？

1999 年に発足したアマチュア最高峰の全国リーグで、その源流は 1965 年に発足した JSL（日本サッカ
ーリーグ）と、その流れを受けて 1992 年に発足した旧 JFL（ジャパンフットボールリーグ）に求めるこ
とができる。

■ 旧 JFL（1992 年～1998 年）の発足

Jリーグに参入しなかったJSLのチームを中心に、1部・2部各10チームで計20チームによる旧JFLが1992年に発足した。1993年のJリーグ発足により、1994年から1部・2部制を廃止し、1リーグに再編された(16チーム)。Jリーグ準会員のチームにとって旧JFLで2位以内に入ることが昇格条件であったため、多くのプロチームが旧JFLに参入してきていた。ヤマハ(現ジュビロ磐田)、フジタ(現湘南ベルマーレ)、セレッソ大阪、福岡ブルックス(現アビスパ福岡)、コンサドーレ札幌、東京ガス(現FC東京)など現在Jリーグに所属するクラブも旧JFLで戦っていた。

■ J2、新JFL(ともに1999年～現在)の発足

プロアマ混在の旧JFLをプロのJ2(Jリーグディビジョン2)とアマチュアの新JFL(日本フットボールリーグ)に再編した。

J2が16クラブまで増えた時点でJ2と日本フットボールリーグ(JFL)の入れ替えを行う予定。

■ JFLを構成するクラブとプレーヤー

JFLには企業チーム、クラブチーム、大学チームといった様々な種類のチームがそれぞれの立場でリーグに参加している。環境がそれぞれ違う選手、クラブ同士が戦うリーグは、世界的に見ても珍しいリーグである。

2002年11月10日現在、日本フットボールリーガー686人の内、93.5%がアマチュア選手である。クラブは全クラブがアマチュア登録だが、選手の中には若干のプロ契約選手もいる。

<2>JFL所属クラブ、リーグが抱える問題

■観客動員数の減少傾向 ⇒ 入場料収入の減少

99年→1,084人 00年→901人 01年→515人 02年→574人

開幕当初より1試合平均観客数が半減しているが、2000年までJFLに所属していた集客力のあった横浜FCが抜けたことが大きな原因である(非ローカルメディアが取り上げるクラブがあまりない)

■チーム存続問題

JFLで活動していくには、JFL年会費、遠征費、ホームゲーム開催費等で運営費が最低でも2～3000万円必要となる。財政的に厳しい状況に置かれているクラブがあり、毎年クラブ存続問題の話が上がってくる。

■ホームスタジアム

特に都市部のクラブでは、他団体との兼ね合いでホームゲーム開催スタジアムを固定できない。

<3>今後の方策について

■ J F L の価値を高めていくためには？

1) リーグのアプローチ

- ・ J F L 独自のイメージ、新たな魅力を創出し、リーグ価値を高めていく
- ・ メディアリリースの充実を図り、多くの媒体でより報道されるように努力する
- ・ J F L の情報を自らより発信していく（オフィシャルHPの立ち上げなど）
- ・ 話題性のある企画を創出

（現規約では不可能だが、同じ規模の競技場を使用する L リーグや大学リーグと連携し、ダブルヘッダーを組むなど。運営経費節減にもつながる）

2) クラブのアプローチ

- ・ J F L 所属クラブがより地域に溶け込み、地域に必要とされるクラブに発展すること
- ・ 観客動員をビッグクラブの出現に頼るのではなく、ファン拡大、ファン層拡大への努力を 続けていくこと
- ・ ホームスタジアムの確保（行政への働きかけなど）
- ・ ローカルメディア、インターネットメディアへの働きかけ（広報）
- ・ 試合運営の簡素化、魅力あるホームゲーム会場作り
- ・ 収入増への方策（マーチャンダイジング、グッズ販売、サッカースクールなど）
- ・ 専属スタッフ雇用への努力
- ・ 専門分野でのボランティアスタッフ採用によるマネジメント分野の強化（経理、企画など）

3) J F L クラブの理想像（J F L 運営部長 加藤桂三氏談）

『1億円を集められ、プロパーのマネジメントスタッフ2名、コーチングスタッフ1名を雇えるクラブ』

<4> J F L 所属 横河 F C の取り組み（スライドを用いて説明）

- ・ サッカースクールの存在（育成・普及コース 約 400 名）

ただし、横河 F C は会社の同好会、サッカースクールはグループ会社が運営

※2003 年度より横河武蔵野 F C と改称し、同じグループ会社が運営を行う

- ・ J F L を人材育成の場として（クラブの出来る社会的役割の1つ）

カメラマン、DJ、運営スタッフ、トレーナー、記者などの研修の場としての役割
また、運営の簡素化を実施し、支出削減

- ・ 1 試合 1 イベント など

<5> 今後の研究事項

- 1) J F L 所属クラブの現状
- 2) マイナーリーグの中でのチームマネジメント方法
- 3) リーグ・クラブのメディアバリューを高めるための方策
- 4) 他種目のリーグ・クラブの運営ノウハウについて
- 5) 諸外国の下部（アマチュア）リーグの状況

<6> まとめ

リーグと所属クラブ双方が J F L 発展のために協力し、同じベクトルを持ちながら活性化のための努力を続けることが必要である。多様なクラブが所属する J F L を一概に論じるのは難しいが、引き続きサロン 2002 においても J F L をテーマに有効策を議論していきたい。

<参考サイト>

週間 J F L ニュース <http://www.soccer-i.com/jflnews.html>

JFL 横河武蔵野 FC <http://fc.yokogawa.co.jp/>

横河武蔵野 FC サッカースクール <http://www.yokogawa.co.jp/YPK/sports/index.htm>

以上